

株式会社インターアクション

スマホ関連から大気まで。さまざまな分野に広がる技術力

「トップアップ経営でいく」

未来の会社経営を見据える、代表取締役専務・木地伸雄氏は意気込む。実質的な2代目経営者である。株式会社インターアクションでは、光学精密機器関連商品で世界のトップシェアを築いてきたが、そうした実績にあぐらをかくことなく、新たな事業にも積極的に取組んできた。それが、太陽光発電によるメガソーラーと、大気汚染対策のための排ガス処理装置だ。



「光学精密機器関連部門では、主にスマートフォンのカメラの心臓部であるCCD（電荷結合素子）やC-MOS（相補性金属酸化膜半導体）イメージャなどの電子部品の検査機器を扱っています。これは世界シェアの6割を獲得し、信頼を得てきました。こうした技術力をさらに生かし、いかに社会に貢献できるか？ そう考えながら、さらなる事業展開を進めてきました」

そう語る木地氏が軸としたのは、横浜らしさ。環境未来都市、横浜らしい観点から自然エネルギーへの取組みや、環境関連機器の開発などに目を向けたのだ。

6割のシェアを誇る、排ガス脱臭装置

なかでも注目すべきは、排ガスの脱臭装置だ。2014年に子会社化した株式会社エア・ガズ・テクノスの技術供与により、印刷時の排ガスを触媒燃焼によって脱臭。環境に配慮し、省エネ設計が施されたこの装置は、日本では全国6割のシェアを占めているという。また排ガス規制の厳しくなった中国でも、この装置への関心が高まっている。

「中国はいまや人口13億人、産業の発展とともに環境問題への関心も高まっています。産業ガスの処理装置は、中国やインドなどの発展途上国に戦略的に販売を進めています」

中国駐在経験から生まれた、高性能空気清浄機

木地氏が排ガス処理装置に目を向けたのも、実は中国での駐在経験がきっかけだった。

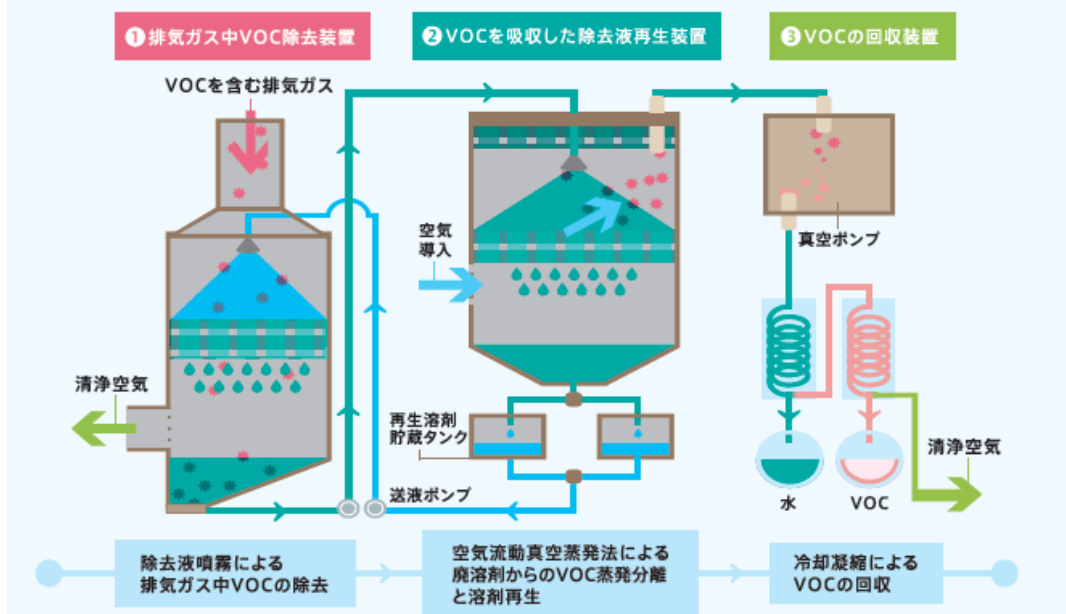
「営業のため、かつて中国に駐在していたのですが、その時すでに大気汚染の問題がひどかったんです。隣国の大気汚染は、日本の環境にも影響します。そこで排ガス処理装置の開発に取り組むようになったのです」

現在、同社ではよりコンパクトな高性能空気清浄機の開発に取り組んでいる。コンパクト、低コストで、中小企業でも気軽に導入できるというもの。インク清浄で使われる有害なVOC(ジクロロメタン等)を除去できる装置の小型化は世界初だという。

「慶應義塾大学理工学部の田中茂教授の研究グループとの共同開発で実現しました。あとはこの装置をいかに商品化するか。躯体の製造を手がける、ものづくり企業を探しているところです。市内企業とコラボできたら、いいですね」

横浜らしい社会的価値の創造という夢をのせて、世界に向けた新たな事業が始まる。

・VOC除去処理システムの概略図



会社概要

株式会社インターアクション

代表取締役社長：木地 英雄

本社：横浜市金沢区福浦一丁目一番地 横浜金沢ハイテクセンタービル 14F

TEL：045-788-8373 FAX：045-788-8371

設立：1992年6月

事業内容：光学精密検査機器関連製品、再生可能エネルギー関連製品及び環境
関連製品の開発・製造・仕入・販売

URL：<http://www.inter-action.co.jp>